

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中和小学校
校長名	寺崎 康子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に続き、学習状況は一定水準を維持している。特に、第5学年は、各教科でどの観点も区平均を上回っている。 ・国語科では、昨年度区平均より低かった第4学年の3観点が、第3学年の2観点が区平均を上回った。どちらの学年も「話す・聞く能力」が高くなってきた。 ・社会科では、第4・第5・第6学年ともに、社会的事象への関心・意欲が高い。平成30年度より特色ある学校づくり実践研究で、社会科・生活科を通して教材開発をはじめとする授業研究を通して、主体的に問題解決する楽しさを追求し、社会科が好きな児童が増えつつある。 ・昨年度、区平均より下回った第6学年の「「社会的事象についての知識・理解」が上がり、第5学年は、昨年度に続いて「観察・資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」が区平均より5ポイント以上上回っている。 ・算数科では、昨年度下回った第3学年の「数量や図形についての知識・理解」が区平均を上回った。また、第3学年以上は、どの観点もほぼ区平均を上回り、第5・第6学年では「数学的な考え方」が高評価であり、少人数指導の効果が見られた。 ・「数学的な考え方」については、第2学年を除いて、区平均を上回った。どの学年も普通の授業の中で、自分の考えを根拠をもって話すようにしていることが成果となって現れている。 ・理科では、昨年度同様に第5・第6学年がどの観点でも区平均を上回った。 特に、「自然事象への関心・意欲・態度」は区平均より5ポイント以上高く、体験活動を大切にした授業の取組の成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に比べて、4教科ともC層以下が増えている。理科ではAB層が昨年度全体の73%が53%に下がっている。 ・第2・第3学年の学習状況は、他学年に比べて正答率が低い。教科別・学年別にデータを見直せば、学ぶ意欲が低いことと関連項目の数値の低下が見られる。 ・国語科では、第5学年を除く各学年の国語において、区平均を下回る観点があつた。特に、第2学年においては「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」が、第4、第6学年においては「言語についての知識・理解・技能」が課題である。 ・社会科では、第4・第6学年の「観察・資料活用の技能」が区平均を下回った。 ・算数科では、第2・4学年の「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」、第4学年の「算数への関心・意欲・態度」が区平均以下であった。 ・算数科では、第2学年の「算数への関心・意欲・態度」「数学的な考え方」が区平均より5ポイント以上下回った。また、第4学年においても「算数への関心・意欲・態度」が下回った。 ・理科では、第4学年の「自然事象についての知識・理解」が区平均を下回り課題となった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・「ノートを丁寧に書く」項目では、昨年度に引き続き、意識が高まっている。 ・「将来への夢や目標」の項目では、どの学年も昨年度より全国肯定率が高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、低学年から家庭学習の習慣をつけていくことが重要課題である。各家庭の家庭学習への意識向上、各担任の家庭学習徹底の格差やテストの間違い見直し確認な

<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、第3学年の肯定値の低い項目が多い。 ・第4学年では、昨年度肯定値が低かった項目「家族・友達・先生の支え」「充実感や向上心」「学級の絆」が全国平均率を上回り、全体の平均値も全国平均を上回った。 ・第4学年以上の肯定値は、全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ど、全校で徹底していく。 ・低学年から家庭学習のやり方を学ばせる必要がある。 ・「学級の規範意識」の低さは、「学校のきまりを守る」という視点からも関係してくる。教職員の共通理解のもと、学校全体で規範意識を高める風土をつくる。 ・毎年クラス替えを実施しているため、特に第2・第3学年児童にとって、4月時点での肯定値が低さはある意味しかたがないと考える。次回の調査に期待する。
---	--

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年3月中旬、国語科及び算数科の中和テストにおいて学習内容項目の成果と課題が明確にした。 ・「将来への夢や目標」の項目では、どの学年も昨年度より全国肯定率が高くなっている。 ・年3回、生活リズム確認旬間において、「家庭学習」の項目を入れた意識向上を図ったり、毎日、各学年に合わせた学習を提示したり、予習復習の意識向上を図ってきた。 ・落ち着いた学習環境があり、まとまりのある学級、学習意欲の高い学年は、状況調査及び意識調査もよい結果がでている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容項目の成果と課題は見えたと、各学年の終了及び進級時期であったため、次の学年での課題対応時間が足りなかった。課題対応ができる時期に中和テストを実施する。 ・全校で、ふりかえり学習の徹底を図る。 ・引き続き、低学年から家庭学習の位置づけ、学習のやり方を学ばせ、保護者の協力をいただきながら、家庭学習習慣の定着を図る。 ・4～7月の新学期では、楽しい学級・学年づくりを基盤とし、学習する体制を整えていく。 ・「学級の規範意識」や「学校のきまりを守る」という視点からも、教職員の共通理解のもと、学校全体で規範意識を高め、「自分から・自分で」できる風土をつくる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力調査の結果から、各教科の課題へ取り組み

【国語】

- 毎日の授業の中で、言語の特徴や使い方について、文章の構成を捉えさせたり内容の要約をさせたりする活動を取り入れ、「言語についての知識・理解・技能」を高めていく。
- 理解したり表現したりするために必要な文字や語句については、辞書や辞典を利用して調べる活動を取り入れて指導していく。
- 各学年が言葉の意味や漢字の読み書き、語句と語句との関係、接続語や指示語など文章をつなげる言葉について「ふりかえりシート」を活用して、確実に定着させる。
- 「読む能力」「書く力」に関しては、作文・文法の「ふりかえりシート」、文章読解のプリントを活用する。また、学校行事や読書指導と関連させて、作文や感想文、意見文など文章全体の構成や展開を考えたりする指導を充実させることで表現力を高めていく。

【社会】

- 児童一人一人に「どうして」という「大きなハテナ？」をもつ課題をもたせ、課題解決的な学習を行い、社会的な見方や考え方を身につけさせるようにする。
- ICT機器を活用して、児童に興味関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。
- 各学年、グラフ・絵図・地図などの資料を読み取る活動を授業で多く取り入れる。

【算数】

- 「算数への関心・意欲・態度」を高め、自分の考えを表現する力を身につけさせるために、具体物を操作したり日常の事象を観察したり、児童にとって身近な算数の問題を解決したりするなど、具体的な体験活動を積極的に学習に取り入れていく。

- ICT 機器を積極的に活用し、基礎的・基本的な事項を確実に身に付けさせるようにする。
- 児童同士の学び合い活動を取り入れ、「数学的な考え方」及び「数量や図形についての技能」を高めていく。
- 授業の終末には、振り返りやまとめの場面を取り入れ、確認問題や「ふりかえりシート」を使って学習の振り返りを丁寧に行い、学習内容の定着を図る。
- 習熟度に合わせた問題が自力解決でき、「わかった」という達成感を積み重ねて、さらに発展問題に挑戦させる。解き方について説明できるようにする。

【理科】

- 問題を見だし、予想や仮設、観察・実験などの方法について考えたり説明したりする学習活動を重視し、体験的な活動をもとに知識・技能の習得を目指していく。
- 一人一人の児童が主体的に問題解決の活動を行うことで、「自然事象への関心・意欲・態度」を高める。
- 観察・実験を通して自然事象を体験的に学ばせたり科学的な問題に解決しようとする活動を取り入れたりと、日常生活や他教科等との関連を図った学習活動にしていく。

(2) 学力向上のための主な取り組み

【基礎的・基本的な学習内容の定着】

- 教師が全児童のよさを認め、励まし、肯定的な言葉かけや指導を心がけ、互いに支え合う温かい学級づくりに重点を置く。
- 基礎学力の向上を目指して、本校独自の国語科及び算数科の中和テストを年2回実施する。
- 全校学力状況調査（6年）、区学習状況調査（2～6年）、東京都児童の学力向上を図るための調査（5年）の事前指導を行う。前学年の学習内容や調査問題の復習や学力調査の受け方・心構えなどを指導する。
- 朝学習の時間（火曜日：8：30～8：45）には、計算（計算・文章題）や漢字を設定し、計画的に実施する。前期は前学年の内容、後期は当該学年の内容で、「ふりかえりシート」「東京ベーシックドリル」を活用して計画的に取り組む。
- 単元ごとにレディネステストを実施し、児童の実態に応じたクラス分けを行い、習熟度別指導の充実を図る。
- 第1・第2学年においても、3展開の習熟度別指導を実施する。第1学年は後期からの開始とする。特に、DE層の児童に対しては、学習支援指導員と連携し個に応じた学習支援したTT指導を行う。また、授業では確認問題や「ふりかえりシート」等を繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。
- 基礎学力補充を重点とした「中和塾」、児童が学習意欲をもって参加できる「放課後学習クラブ」を実施する。どちらも学習支援指導員を活用して、「中和塾」では基礎学力の定着、学習内容の補充指導が必要な児童を対象に、週3日国語・算数を中心に基礎・基本の定着を図る。また、「放課後学習クラブ」では、週3日児童の学習意欲を高め、自学学習を推進する。
- 夏季休業中（7月）には夏季オープンスクールを5日間実施し、児童の学力向上を図る。

【思考力・判断力・表現力を高める工夫】

- 校内研究2年目にあたる「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す社会科・生活科学習の在り方」の課題解決学習を算数・理科など、他教科にも取り入れ、学び合いを中心とした授業を行っていく。
- 理科の「観察・実験」の補助として、理科講師を活用しTT指導を行うことで、観察・実験を充実させる。
- 読書旬間を年2回（6月・11月）実施し、読書の習慣を育て、想像力や語彙力を豊かにする。また、お話ボランティアによる読み聞かせ（月1回）を行ったり、低中高学年向けの「チャレンジ読書（推奨本）」を提示したりして、読書に対する興味関心を高め、読み取る力を育成する。
- 各教科の単元や領域の学習内容にそって、外部講師やゲストティチャーや学校支援ネットワーク事業を利用した出前授業などを実施し、講師の経験や体験に基づいた専門的な話を聞く

ことにより、児童の学習への興味・関心を高めるようにする。

【家庭学習習慣の確立】

- 「生活リズム確認旬間」を年3回（5月・9月・1月）設定し、「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭で徹底させる同時に、家庭学習の振り返りを行い、保護者にチェックしてもらうことにより、保護者に対しても家庭学習への意義をもたせ、児童と一緒に家庭学習を含めた生活リズムを整え、学習に向き合う態度を育てる。

【教員の授業力向上】

- 特色ある学校づくり推進校として、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す社会科・生活科学習の在り方、副主題を～効果的な課題意識の持たせ方について～」に基づいて、各学年が授業研究を行う。
- 夏季休業中には、模擬授業をとして教師一人一人の授業力を高める。習得・活用を意識した授業展開を学び、児童が興味・関心を高める授業を創造する。
- 児童の学習意欲を高めるための OJT 研修（外国語科の授業づくり・効果的な TT 指導の在り方・道徳科の評価のしかた・図書館を使った調べる学習の指導方法・水泳が苦手な子への指導法など）を実施する。

（3）学習指導の重点

- 「中和学習スタンダード」に基づいた学習スタイルを継続していき、学習規律の徹底に努める。
- 教職員は意図的・計画的な指導に行い、教材研究に努める。
- 1 単位時間に、習得させること（教えること）と活用すること（教えたことを使う活動）を意識した授業に努める。
- 各教科等において、ICT 機器を活用した教材の工夫や指導の充実・改善を図る。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・国語力、特に読解力の向上を図る。
- ・低学年からの基本的な学習内容の定着を図り、学習意欲を高める。（DE 層の減少）
- ・学力（B 層を A 層に）を引き上げる授業改善とステップアップ学習シートの作成